



にしもと
西本 章
あきら
市民連合
(75分)

児童虐待の現状は

問 本市の状況と特徴は。

また、県東部こども家庭センターとネウボラ推進課との連携は。

答 本市に寄せられた2018年度の児童虐待の相談件数は、470件と過去最高になっている。虐待種別では、面前DVを含む心



かわむら
河村 晃子
ひろのり
日本共産党
(75分)

医療的ケア児への支援は

問 ① たんの吸引等の医療的ケアが日常的に必要な子ども

の通学に、市の移動支援事業を活用できるようにすること。

② 生存権や教育を受ける権利を保障する総合的な対策を定める。

答 ① 通学にかかる経費は、教育委員会で保護者の負担を軽減す

理的虐待の割合が約5割と最も多く、身体的虐待が約3割、ネグレクト約2割となっている。全国の児童相談所の相談対応件数も年々増加しており、心理的虐待が約5割と最も多く、本市と同様の状況である。

県東部こども家庭センターとの連携では、定期的な会議の中で支援方針や支援状況の確認等を行うほか、個別ケース会議で支援方法や役割分担等を協議するなど、緊密な連携を図っている。

る措置を取っている。

② 次期障がい福祉計画に反映できるように、福山市慢性疾病児童等地域支援協議会の作業部会で医療的ケア児の実態把握を行い検討する。

介護保険制度の改正は

問 要介護1・2の生活援助サービスを給付対象から外すこと

とが検討されている。外すことをやめるよう国に求めること。

答 持続可能な介護保険制度の確立を図るよう、全国市長会を通じて国に要望している。



つちや
土屋 知紀
ともひろ
日本共産党
(75分)

芦田川の堤防の強化を

問 芦田川の破堤や越水による氾濫を防ぐため、国に「対越水堤防工法」の採用と堤防の補

強工事の促進を要望すること。

答 国で、芦田川河川整備計画に基づき、鋼製矢板を打ち込むなど、現場状況に応じた質的強化対策を実施していると聞いている。



やしき
八杉 光乘
みつのり
新政クラブ
(60分)

高齢者の移動手段の確保に向けた交通支援の在り方は

問 ① 高齢者おでかけ支援事業の導入に対する地域の声と、

運行ルートの考え方は。

② 移動手段を持たない高齢者の増加が今後も見込まれるが、交通支援の在り方は。

答 ① 地域では「バス路線との

学校体育館にエアコンの設置を

問 ① 地域の避難所や敬老会

等で広く市民に利用されている学校の体育館に、国の制度を活用してエアコンを設置すること。

② 設置した場合の費用の試算は。

答 ① 現時点では、空調設備の整備は考えていない。

② 他市の費用を参考に試算すれば動力源がLPガス式の場合、1校当たり約4千万円で、全ての小中学校、義務教育学校111校への整備費は約44億4千万円となる。

関係もあり、ルート設定が難しい」などの声がある。地域の実情やニーズを踏まえ、バス路線への影響を極力抑えた運行ルートとするなど、市がバス事業者と十分な調整を行い、事業の導入支援に努める。

② 自家用車に頼らなくても生活できる環境の整備は重要と考える。バス等の公共交通を基本に、これを補完する乗り合いタクシーやおでかけ支援事業のような地域特性に合った取り組みを広げ、自動運転等の先端技術を活用した実証実験を重ねる中で移動手段としての選択肢を広げ、移動支援に努める。